

## 福島県立図書館

<http://www.library.fks.ed.jp>

No. 62

### 新刊児童図書展示会 ご案内

福島県立図書館では、平成18年度より児童図書の網羅的収集を開始いたしました。そこで、この購入した新刊図書をご覧いただけます。展示会を開催いたします。また、最近の書評に掲載された本をあわせてご紹介いたします。選書のご参考にぜひご覧下さい。

期日：12月7日(木)、8日(金)

時間：10:30～17:00

場所：福島県立図書館 第二研修室

※12月7日(第一木曜日 休館日)は福島県図書館・公民館専門研修会への参加者のための開催になりますので、一般の方で7日にご覧になりたい場合はお問い合わせ下さい。

内容：◆ 新刊児童図書の展示

平成18年4月～9月に発行された児童図書のうち県立図書館で購入したもの

◆ 書評で取り上げられた児童図書の紹介

平成18年に児童図書の専門誌等で取り上げられた図書と書評をあわせて展示します

◆ その他

最近10年に主要な児童文学賞を受賞した図書、赤ちゃんから楽しむ絵本 等

### 平成18年度 全国公共図書館児童・青少年部門研究集会 参加報告

10月19日(木)20日(金)の2日間、札幌市において「広げよう！つなげよう！子どもと本の明るい未来」をテーマに標記研究集会が開催されました。参加者は286名。

基調講演「子どもは本と動物が大好き～伝えるのは命～」は、旭川市旭山動物園園長の小菅正夫氏のお話で、現在の子どもは実体験が乏しく、このことがメディアへの親和性を高くしていることなどを指摘、また旭山動物園では世界ではじめてホッキョクグマの繁殖に成功したが、これは野生のクマの巣穴のデータが旧ソ連の論文にあったのを見つけたからであり、図書館での情報は蓄積され、なおかつ活用できるようになっていることが大事だとお話しがありました。

また基調報告「児童奉仕の現状と課題」では、水戸市立中央図書館の坂部豪氏より「文部省の社会教育調査※によれば、図書館における児童の貸出冊数は増加しているが、一方で読書離れがあり不読率は中・高生において少し上がってきている。また、OECD

(経済協力開発機構)の学習到達度調査によれば、日本では読解力の上位と下位の格差が大きいという結果がでている。子どもの読書活動推進をめぐる動きでは福島市こどもライブラリーなどの子ども専門図書館の建設があり、認識の高まりを窺わせる。読み聞かせも盛り上がりを見せているが、これまでの子どもと本を結ぶ手段のひとつとしての読み聞かせから、自己実現の方法としての読み聞かせをしている大人が増えつつあり、本来の目的の再確認が必要ではないか」とのお話がありました。※文部科学省のHPで詳細をみることができます。

### 平成18年度 国際子ども図書館 児童文学連続講座 参加報告

10月16日(月)～18日(水)の3日間、東京上野の国際子ども図書館において、今年度で3年目となる児童文学連続講座が開催されました。テーマは「絵本の愉しみーイギリス絵本の伝統に学ぶー」で、参加者は68名でした。

1日目は吉田新一氏(国立国会図書館客員調査員)による「ランドルフ・コールデコット」、「ビアトリクス・ポター」の講義、国際子ども図書館職員による「コレクションからコールデコット、ポター、アーディゾーニ関連資料」所蔵資料の紹介がありました。2日目は吉田氏による「エドワード・アーディゾーニ」の講義、国際子ども図書館見学、三宅興子氏(梅花女子大学大学院教授)による講義「チャールズ・キーピングー自己表現としての絵本ー」、国際子ども図書館職員による「絵本ギャラリーの紹介」(国際子ども図書館 HP の紹介)がありました。3日目は灰島かり氏(翻訳家)による「シャーリー・ヒューズー英国で最も敬愛される絵本画家」、藤本朝巳氏(フェリス女学院大学教授)による「アンソニー・ブラウンの画像分析ーイギリス絵本の伝統と革新ー」の講義でした。

尚、平成17年度の児童文学講座内容をまとめた『日本児童文学の流れ(国立国会図書館国際子ども図書館／編集・発行、￥1,470)』が日本図書館協会(TEL03-3523-0812)から発売となりました。今年度の講義内容も来年発行される予定となっています。

【ご質問・情報はこちらへ 福島県立図書館・児童図書研究室】

〒960-8003 福島市森合字西養山1番地

TEL 024-535-3218 FAX 024-536-4787

E-mail [kodomo@library.fks.ed.jp](mailto:kodomo@library.fks.ed.jp)

## レファレンス記録 20

小学校の教諭ですが、4月から図書室担当になりました。図書室の本を選ぶのに参考になる資料を教えて下さい。

### 【回答】

年間出版される書籍の数は約78,000冊、そのうち児童書は約5,000冊。その中から図書館にあるべき本を、しかも少ない予算の中から選ぶというのは専門的な技術を要することです。本を選ぶために参考になる図書はいろいろあります。今回は、図書館や学校図書室・公民館図書室で児童書を選ぶ際に基本的とされる以下の4冊をご紹介いたします。なお、福島県立図書館児童図書研究室では子どもの本を選ぶ際に参考となるパスファインダー「子どもの本・使える！ブックリスト」を作成しましたので、併せてご活用下さい。

#### 『選定図書総目録』 <日本図書館協会／編・発行、年刊>

日本図書館協会図書選定委員会が最新の1年間に出版された書籍を対象として図書館にあるべき本を選んで掲載。一般書のあとに「児童図書」と「絵本」のページがあり、1タイトルごとにあらすじ・解説(90字程)、「幼児向」「小学初級」「小学中級」「小学上級」「青年向」「大学生向」「専門向」の対象表示と、「絵本」以外は件名表示(基本件名標目表による)あり。著者・書名索引以外に件名索引もあるので便利。2006年版は選定書全9,275点のうち児童書606点絵本357点。

(※冊子体は2006年版で終刊。2007年版からCD-ROM版での刊行予定。)

#### ◆『子どもの本～この1年を振り返って～』 <NPO図書館の学校／編・発行、年刊>

前年の1月から12月に出版された書籍を対象にNPO「図書館の学校」が選んだ200冊(2000年版は100冊)。2005年版からは取り上げた本全冊の表紙をカラーで紹介。絵本・フィクション・ノンフィクションにわかれ、1タイトルごとにあらすじ・解説(150字程)、「幼」「小初」「小中」「小上」「中」「高」「般」の対象表示、キーワード(件名)表示あり。書名・著者名索引あり。「今年の紙芝居」のページで五山賞の、「今年のマンガ」のページでマンガ賞各賞の受賞作品の紹介あり。

#### ◆『学校図書館基本図書目録』 <全国学校図書館協議会／編・発行、年刊>

全国学校図書館協議会が選んだ学校図書館に備えるべき基本図書の目録。現在入手可能な書籍のうち、1952年度版以降、最新の1年間に出版された本の中で選定基準に合致したものを追加、前の年度までで選ばれたものの中から絶版や内容が古くなった等の理由で選定からはずしたものを削除(削除したものも列挙)して構成。小学校・中学校・高校の3部門のNDC順からなり、1タイトルごとにあらすじ・解説(100字程)と件名表示あり。それぞれの分野ごとの読書傾向などの解説あり。書名・著者名索引あり。2006年版は小2,458冊・中2,356冊・高2,939冊選定。

#### ◆『よい絵本』 <全国学校図書館協議会／編・発行、隔年刊>

全国学校図書館協議会がこれだけは読んでほしいと選んだ絵本。1977年に出された第1回「よい絵本」に選ばれた100冊以降、第17回までは最新の1年間、それ以降は隔年で、新たに選んだものを加え出されている。日本の絵本、日本の絵本(昔話)、外国の絵本、知識の絵本にわかれ、表紙をカラーで紹介、「乳児」「幼児」「小低」「小中」「小高」「中」の対象表示、あらすじ・解説(450字程)、書名・著者名索引あり。歴代の「絵本にっぽん賞」「日本絵本賞」の受賞作品一覧あり。第23回は厳選した17点を加え211点を収録。